

II 相談状況

令和5年度の相談受付件数は8,313件(前年度7,971件)で前年度比104.3%である。

相談種別で最も多いのは障害相談3,755件で、そのうち知的障害相談が3,691件(障害相談全体の98.30%)である。

次いで養護相談が3,596件、うち児童虐待相談が2,749件(養護相談全体の76.45%)となっている。

経路別受付の状況は市町村(福祉事務所も含む)、家族・親戚からのものが大多数である。

(図2参照)

また、処理別状況は助言指導が5,431件(面接指導件数の92.13%)と圧倒的に多く、

児童施設入所・通所は85件(総処理件数の1.03%)となっている。(図3参照)

図1 相談別受付件数

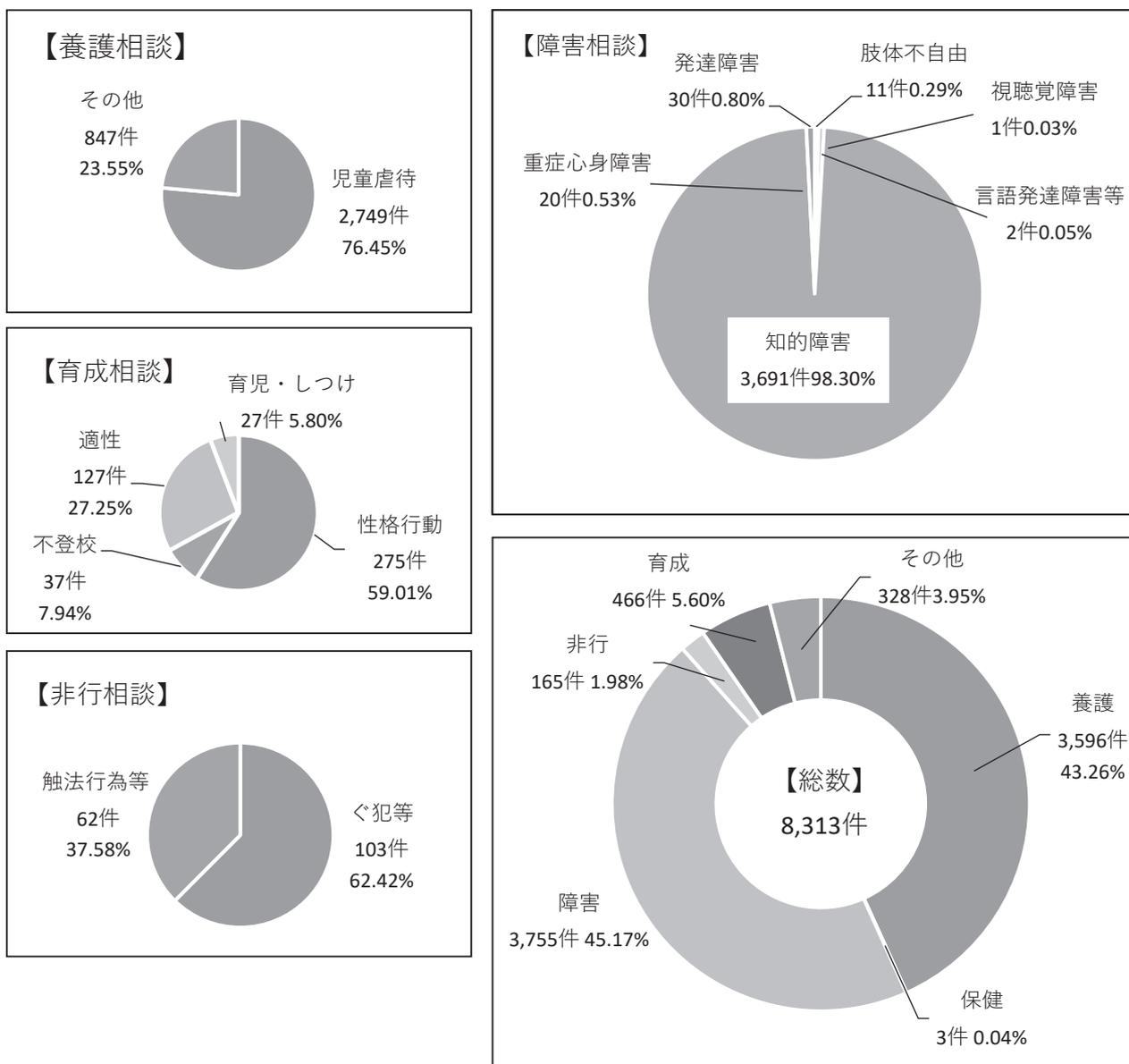


表1 相談種類別受付状況

	中央		西濃		中濃		東濃		飛騨		計		
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	
養護	児童虐待	1,372	36.79	478	32.94	483	31.36	323	28.19	93	20.81	2,749	33.07
	その他	308	8.26	243	16.75	169	10.97	64	5.58	63	14.09	847	10.19
	保健相談	1	0.03	0	0.00	2	0.13	0	0.00	0	0.00	3	0.03
障害	肢体不自由	7	0.19	1	0.07	1	0.06	1	0.09	1	0.22	11	0.13
	視聴覚障害	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.22	1	0.01
	言語発達障害等	0	0.00	2	0.14	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.02
	重症心身障害	10	0.27	5	0.34	2	0.13	3	0.26	0	0.00	20	0.24
	知的障害	1,594	42.74	562	38.73	698	45.33	575	50.17	262	58.62	3,691	44.40
	発達障害	1	0.03	3	0.21	3	0.19	23	2.01	0	0.00	30	0.36
非行	ぐ犯等	33	0.88	22	1.52	29	1.88	18	1.57	1	0.22	103	1.24
	触法行為等	26	0.70	23	1.59	5	0.33	8	0.70	0	0.00	62	0.75
育成	性格行動	126	3.38	47	3.24	36	2.34	54	4.71	12	2.69	275	3.31
	不登校	8	0.21	10	0.69	5	0.33	10	0.87	4	0.89	37	0.45
	適性	53	1.42	33	2.27	41	2.66	0	0.00	0	0.00	127	1.53
	育児・しつけ	1	0.03	7	0.48	8	0.52	11	0.96	0	0.00	27	0.32
	その他	189	5.07	15	1.03	58	3.77	56	4.89	10	2.24	328	3.95
	計	3,729	100.0	1,451	100.0	1,540	100.0	1,146	100.0	447	100.0	8,313	100.0
	前年度計	3,561		1,398		1,488		1,028		496		7,971	
	前年度比(%)	104.7		103.8		103.5		111.5		90.1		104.3	

図2 経路別受付件数

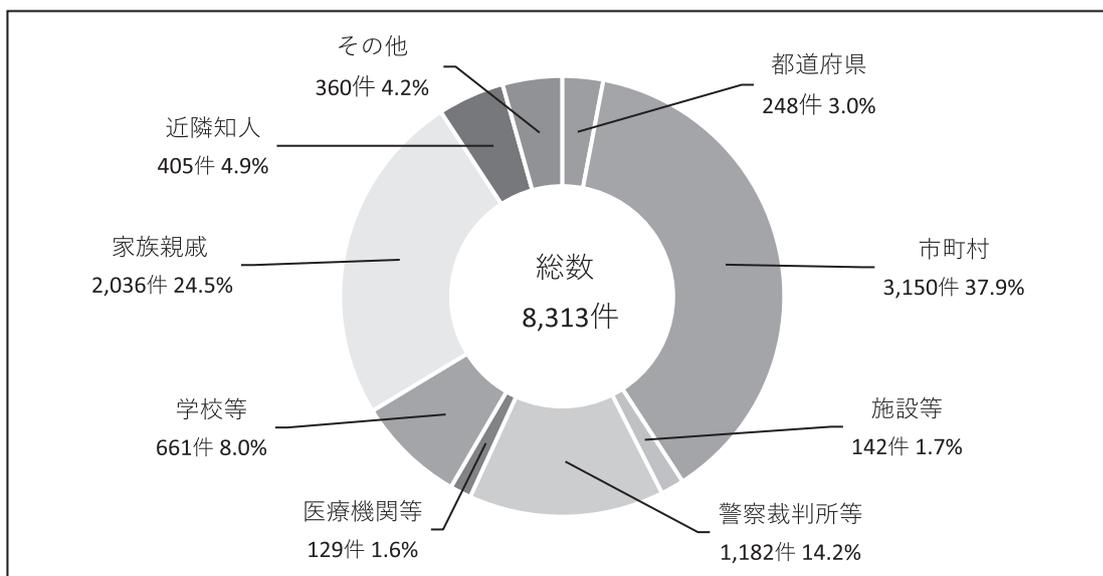
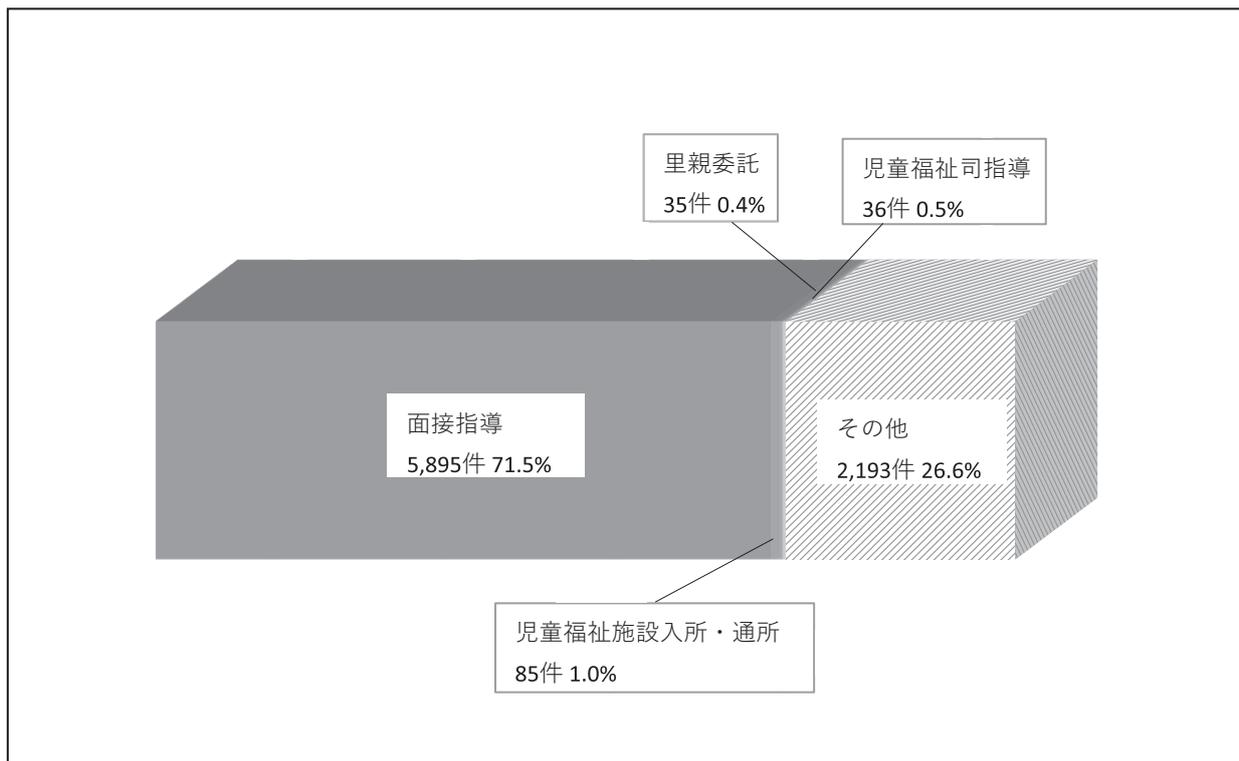


図3 処理別件数 【処理件数8,244件の内訳】



【面接指導5,895件の内訳】

助言指導	5,431	92.13%
継続指導	395	6.70%
他機関あっせん	69	1.17%

【その他2,193件の内訳】

児童委員指導	0	0%
児童家庭支援センター委託	24	1.09%
市町村送致	42	1.92%
福祉事務所送致	58	2.64%
訓戒・誓約	42	1.92%
指定医療機関委託	0	0%
家庭裁判所送致	2	0.09%
障害児施設への利用契約	32	1.46%
その他	1,993	90.88%

図4 年度別・相談種類別受付件数の推移(保健相談は『その他』に含む)

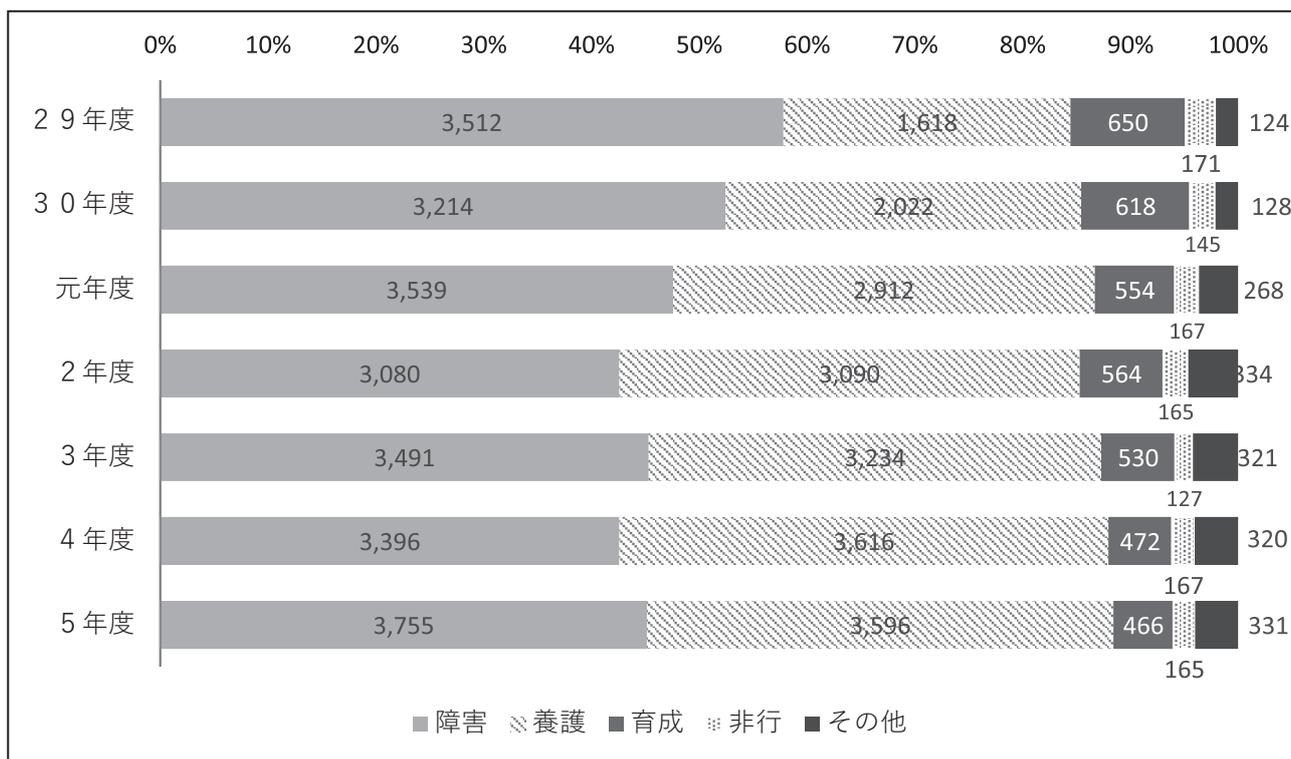
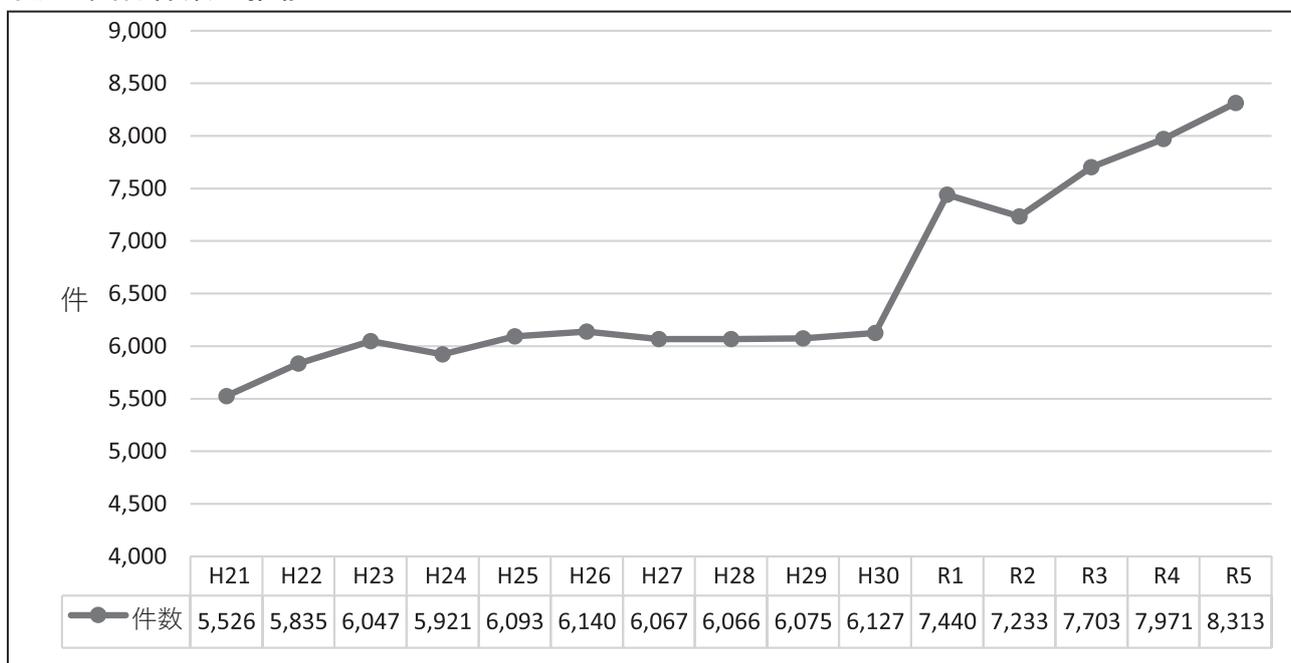


図5 受付件数の推移



養護相談の理由別対応状況(虐待)

令和5年度の養護相談の理由別処理件数は、巻末の福祉行政報告例(第49表)に記載。
その養護相談(理由別)のうち、虐待相談の経路・虐待者・被虐待者の年齢・相談種別処理については次のとおりである。

表2 虐待相談の経路

対応件数

種別 センター別	都道府県	市町村	児童福祉施設等	警察等	保健所・医療機関	学校等	家族		親戚	近隣・知人	児童本人	その他	計
							虐待者本人	虐待者以外					
中央	37	284	19	476	26	228	38	43	10	128	36	24	1,349
西濃	12	51	4	151	11	119	29	36	13	26	27	12	491
中濃	11	118	8	122	13	113	0	26	1	59	5	18	494
東濃	12	29	3	125	17	41	0	14	3	42	7	2	295
飛騨	0	3	11	25	2	32	1	5	2	4	8	3	96
計	72	485	45	899	69	533	68	124	29	259	83	59	2,725

表3 虐待相談の主な虐待者

対応件数

種別 センター別	実父	実父以外の父親	実母	実母以外の母親	その他	計
中央	617	79	611	1	41	1,349
西濃	192	49	219	3	28	491
中濃	192	33	237	14	18	494
東濃	162	13	105	0	15	295
飛騨	34	2	52	0	8	96
計	1,197	176	1,224	18	110	2,725

図6 被虐待児の年齢・相談種別（年齢区分下の数字は各区分の総件数）

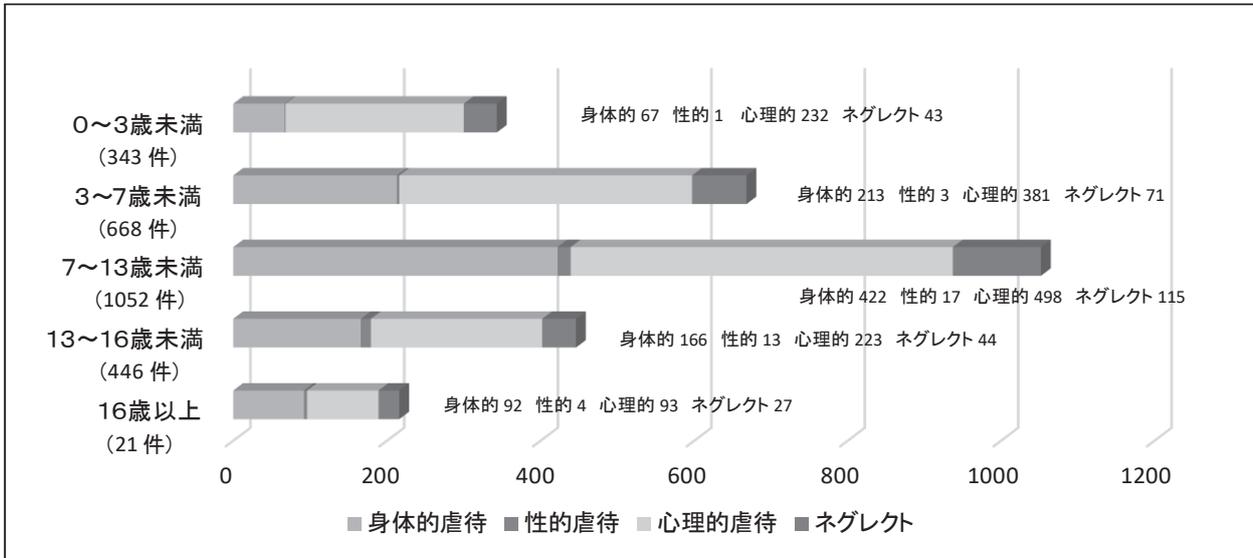


表4 虐待相談の対応

施設入所	施設内					里親委託	面接指導 (助言指導、継続指導等)	児童福祉司指導	その他	合計
	児童養護施設	乳児院	児童自立支援施設	児童心理治療施設	その他					
48	33	2	1	9	3	15	2,568	17	77	2,725

表5 虐待相談の対応件数の推移

年度		H30	R1	R2	R3	R4	R5
全 国		159,838	193,780	205,044	207,660	214,843	未公表
岐 阜 県		1,405	2,280	2,268	2,390	2,684	2,725
内 訳	中 央	605	1,022	1,051	1,046	1,223	1,349
	西 濃	218	387	347	400	467	491
	中 濃	274	475	481	537	588	494
	東 濃	202	286	282	285	286	295
	飛 驒	106	110	107	122	120	96

図7 虐待相談の対応件数の推移(岐阜県)

